

イバラトミヨ

Pungitius pungitius pungitius

トゲウオ科



イバラトミヨ

名前の由来

「イバラ」は背鰭前方などにチクチクする刺があるからであろう。トミヨは水田や流れの緩い小川などに住むので、止水魚(とみよ)あるいは田水魚(たみよ)に由来するとの説がある。別名キタノトミヨ。漢字名:「茨富魚」または「棘富魚」

特定種

淡水型のイバラトミヨに関しては特になし。

<汽水型イバラトミヨ>北海道レッドデータ…希少種(R)。

「汽水型」は北海道東部に分布し、その名のとおり汽水域に生息するもの。汽水型は銀白色の体色を持つ。

<雄物型イバラトミヨ>環境省レッドデータ…絶滅危惧 I A類(CR)。「雄物型」は、秋田県の雄物川流域の湧水地帯だけに分布するもので、北海道に生息するイバラトミヨではない。

形態的特徴

全長5~6cm。背ビレに約8~10棘、尻ビレに1棘。側線上、胸部と尾柄に鱗板と呼ばれる大きなうろこが1列に並んでいる。



イバラトミヨ (撮影: 妹尾優二)

類似種と見分け方

イトヨ、エゾトミヨ。

イトヨ類は背ビレの棘が3~4棘と少ない。上から見るとイバラトミヨの尾鰭の付け根は細く窄んでいるのに対し、

イトヨは半円形の隆起(隆起骨)がある。エゾトミヨの背ビレ直前の棘は短く目の直径の58%だが、イバラトミヨの同所は長く60%以上。

一生

産卵期は4~6月。産卵場所は水深数十cmの水草の根元など。

緩流域や汽水域の岸寄りで水草のある場所に生息する。寿命は1年半、メスには2年生きるものがある。

生息環境・分布

緩流域や汽水域の岸寄りで水草のある場所に生息する。

分布: 朝鮮半島、アイルランド、フランス、アメリカなどの北方圏に分布。

国内では、北海道、青森、秋田、山形、新潟に分布。

北海道では、全域の湿原地帯、小川、沼。

十勝地方では、十勝の河川に広く分布する。上流域には生息せず、下流~中流の岸辺や、沼・池に多い。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
産卵期				■									
孵化期				■									
幼魚期	■					■							
成魚期			■										

寿命は1年半
メスには2年生きるものも

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシントンカ

食性

肉食性。水生昆虫、小型甲殻類、魚卵、仔魚などを食べる。

繁殖生態

産卵期は4～6月。産卵場所は水深数10cmの水草の根元など。産卵期になるとオスの体は真っ黒になる。

オスは植物の破片を水草の茎の中途に集め、自身が分泌した粘液でゴルフボール大の球形で通り抜けられる穴のあいた巣をつくる。その後オスは「ジグザグダンス」と呼ばれる求愛行動でメスを巣に誘い、巣穴に導く。巣に入ったメスは尾柄をオスの口で刺激され産卵する。オスは数尾のメスを巣に誘って産卵させる。

産卵数は40～200粒。7～10日でふ化。オスは卵に新鮮な水を送ったり、ふ化後仔魚が巣を離れるまで外敵を追い払うなどの保護をおこなう。



産卵期のオス(左)は、黒くなる

他生物との関わり

非繁殖期は、ウグイの稚魚とともに群れている。イトウの餌となるという。

興味深い話

- 「ジグザグダンス」と呼ばれる求愛のための派手なダンスを踊る。
- 産卵期、オスは真っ黒になる（汽水型は除く）
- 岸辺の水草がある場所をねらって、網を入れると容易に捕獲できる。身近な川に生息し、容易に採取できるので、観察会の対象に向く。
- トゲウオ類一般に関して、河川改修などで環境が変化しているためなのか、最近は植物の茂る排水溝や沼などに多く生息している。（妹尾優二）
- 日本産のイバラトミヨは、最近の研究により、淡水型、汽水型、オス物型の3つの遺伝的に異なる集団からなることがわかってきたという。淡水型は淡水にすむもので、分



イバラトミヨ

布域が広く遺伝的変異も大きい。汽水型はその名の通り汽水域に生息するもので、北海道東部に分布し、銀白色、産卵期のオスは腹部下面しか黒くならない。雄物型は秋田県雄物川流域の湧水地帯だけに分布する。これら3つの型を形態的に区別するのは難しい。

■十勝地方のアイヌ語ではトゲウオ類一般が、「ロコム」、「ラカン」、「アユシチュア」と呼ばれる。



イバラトミヨは流れが緩い場所の岸寄り水草のあるところに生息する

配慮事項

水生植物や水質が良好なことや、緩やかな流れと岸際に生育する草が重要。また湧水や伏流水由来の小河川にも多く

生息している。

参考文献

- 「北海道の淡水魚」 稗田一俊、北海道新聞社 1984
「検索入門 川と湖の魚②」 川那部浩哉・水野信彦 保育社 1990
「漁業生物図鑑 北のさかなたち」 長澤和也・鳥澤雅 編、(株)日本海洋センター 1991
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」 川那部浩哉・水野信彦 編・監

- 修、山と溪谷社 1989
「本別町生活文化誌 抜刷 第九編 アイヌの生活と文化」
「昭和61年度 アイヌ文化財調査報告書(アイヌ民俗調査VI)」 北海道教育庁社会教育部文化課 (編)、北海道教育委員会 1987

★ 妹尾優二：(株)エコテック、流域生態研究所

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ